

聖地熊野・高野山（普門院）

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

おおゆのはり

大斎原（熊野本宮大社の旧所在地）

伊邪那岐家最後皇祖こうその御靈魂所みたまどころ、「陵」墳墓ふんぼの地

約一五〇〇代続いた伊邪那岐家世襲最期の伊邪那岐尊こうそご夫妻の墳墓

ハヤスサノオ尊こうそご夫妻の墳墓

アマテルカミ尊こうそご夫妻の墳墓

現在の生駒山の石切神社の場所がニギハヤヒ天皇を中心とする大和政庁があつた場所でございます。神武天皇は、西宮のえびす社の有る場所より上陸して、一揆に占拠しようとしたが、事の外、抵抗が強く終に軍勢ついでを引きあげ、紀伊半島を南に廻り、那智の「なぎさの森」から大斎原を占拠侵略する道を選ばれたのです。

そして神武天皇は那智の海「なぎさの森」から山越えをして、熊野川に出て、瞬時に大斎原を占拠され「吾の言うことを聞かなければこの墓処みたまどころとて暴いてしまふ」と談判になれば、ニギハヤヒ天皇は「皇祖の御靈処みたまどころを質に取られた上の談判なれば、吾が我慢するしかない」と仰せになられ、無血を以つて国譲りされて以来、約二千七百年が過ぎています。

現在は古事記・日本書紀に基づいた架空の創り話になって、伊勢生成の神と神武天皇の前の天皇を隠し葬ってしまい、伊邪那岐家世襲最期の伊邪那岐尊を淡路島に追い込み、おのころ島の伝説として仕舞ったのでございませう。

明治二十二年明治憲法が發布され、それを見られた神力氣が「この憲法は亡国憲法であり、直ちに水に流せ。」と仰せに成り、大齋原の三殿だけを残し、他の建物、修験者の行者小屋・祈祷所はことごとく流されたのであります。その後洪水に遭わない現在の場所、本宮に遷されてお祀りされたのでございます。

神力氣を以って明治二十三年教育勅語を「民草のために国造りをするが良い」と仰せに成られたにもかかわらず、明治憲法をムチに、教育勅語をアメとして国民をだました明治政府は、始めの国・日本国が他国へ侵略することは許されないものを、武器の自由商人（アメリカ・イギリス）フリーメーソ

ンに靈魂を埒されて、武器を買い込み、西郷隆盛以下民主勢力を葬った「西南の役」を境にして、その後、権力者達の意のままに、自由商人（アメリカ・イギリス）フリーメーソンの代理戦争、明治・大正・昭和と戦争に明け暮れその結果、始めの国の宿命として、広島長崎に原子爆弾の洗礼を受けたので御座居ます。

今、再びその時代と同じ事をしているのです。「絶対に使用してはならない知恵の政治によって、今もほとんど武器・弾薬を買い込んで軍備を持ち、日本国憲法第九条を改正して、戦争の出来る普通の国となって国連軍に参加するのはなにごとぞ。神に背き今度は世界の最初に起こる核爆弾の洗礼を受けるのか・・・？答えて見るが良い。」と仰せでございませう。

熊野本宮大社

大齋原に祀られていた御靈魂所が洪水になり、この地を御靈魂所

「黎明殿」として遷し祀られています。

伊邪那岐家世襲最後の伊邪那岐家親子の墓処

神殿に向かつて左

伊邪那岐家世襲最後の伊邪那岐尊ご夫婦

長男アマテルカミ尊と弟ハヤスサノオ尊の父母の墓

伊邪那岐家世襲最後の伊邪那岐尊・伊邪那身命さまは、米を作るのに陸稲で難儀をされてきました。ある時、鶴が毎日のように舞い降りてくる場所がありました。伊邪那岐家世襲最後の伊邪那岐尊・伊邪那身命さまは、その場所は自然にあげが出来、浅い水溜りとなって、そこには葦のような、稗のような物が、頑丈に見事に実っていて、それを鶴が嘴でつんばり、水を飲む姿を観てお二人は「ハア・・・」と気付いた事は、「水をためて、そこに籾を蒔き育てれば、あのような稲が出来るのではないか。」と思い、あげを造り、田んぼを平らにして水を入れ、籾を蒔き初めて水田を造ったのが水耕栽培の始

まりです。現在「花の窟」の近くに産田神社があります、その境内がその名残を遺しています。

神殿に向かい中央

ハヤスサノオ尊ご夫妻の墓

ハヤスサノオ尊は「母」伊邪那身命が亡くなられた時は小さい時でした。三歳にも成れば少しでも思い出しても良いはずが、何一つ母の事を思い出す事ができず、母恋しさの靈魂が、大斎原の父母の墓処を何時もお参りされ大事にお守りされました。ハヤスサノオ尊は「自分の死後、亡き父母の隣に葬って望しい」と遺言されて祀られました。

神殿に向かい右

アマテルカミ尊ご夫妻の墓

長男アマテルカミ尊も、自分もハヤスサノオ尊の隣に葬って望しいと遺言されて祀られました。

ふだらくじ
補陀洛寺

聖徳太子が救世観音にて、難民をお救いに成られたなごりでございます。

入り口であり出口であります。

神武天皇は現在の那智の海「なぎさの森」に軍勢を入れ上陸して大斎原を占拠した入り口であります。

聖徳太子は補陀洛信仰を以って那智の海「なぎさの森」から、神武天皇に弾圧され、苦しんでいた人々（大和民族）を船で、此の港から黒潮に乗せ、関東の方へ逃された出口でございます。

速玉神社

大和民族の隠れ家・大斎原の案内所・兼・警護所でありました

神武天皇は、那智の海「なぎさの森」から上陸し、山越えをして、熊野川に出て、瞬時に大斎原を占拠されてしまいましたので、警護所の役目を果たす事が出来ませんでした。

向かって左よりの三殿

住吉造りを以ってすめらぎの靈魂（天皇）

神明造りを以ってすめろぎの御霊（皇后）

若宮造りを以って立太子の御霊（皇太子）

我が日ノ本の国の初めの神祀りを、神の意志により人類のご先祖の御霊処となつたのです。その為、歴代の数多の天皇さま、親王さまが何度も参拝されたのはそこにあります。

はな いわや
花の窟

伊邪那岐家世襲最後の伊邪那岐尊・伊邪那身命さまは、長男・アマテルカ

ミ尊と共に、山育り植林と、田作り、稲作り、国造りにお励みに成っております

れました。現在の「花の窟」の辺りで、ハヤスサノオ尊の次のお子を身籠り普及に励まれていました時、急に産気づきました。伊邪那岐家世襲最後の

伊邪那身命は、小屋にも帰れず、「もう何人もお産を経験して慣れていきますか

ら」と言われ、岩陰に入って一人でお産をしました。だが失敗されて産後の出血多量により、袋をかぶって産まれた児（かぐつち尊）を助ける事も出来ず、親子共々亡くなられた場所でございます。

私、加古藤市が平成元年十月頃の或る日、弥勒再下生の神聖画を左右木吉江さまと熊野本宮大社へ奉納の道すがら立ち寄った時に、かぐつち尊が祀られています上に有る岩の横に、初代伊邪那身命が始めて御姿をお見せになられ、「私は初代伊邪那身命です。ここに祀られています伊邪那身命は、伊邪那岐家世襲最後の伊邪那身命であり、神聖画を見せて以来、私が伝えてきました。これからも伝えていきますから精進してください。」と初めて、声の主を明かにされ、御啓示をお受けした場所でございます。

「花とは丹生丹生魂遺伝子「血」のことです。」と御啓示されました。

高野山

弘法大師は、大門と根本大塔・本堂と奥の院を同じ基礎石の高さをもって、上下の隔たりが無い世界を、造営できる土地を見つけたのが高野山で御座居ます。

此の地球生命界は、総ての生氣物が皆平等である事を、真実の靈現言靈七十六音（南無）を以って悟りをされ、真言密教（伊勢生成の神）の教えとして伝え遺されたので御座居ます。

神武天皇は丹波国の真名井原丹庭、現在の京都府宮津市天橋立に御座居ます元伊勢の伊勢生成の神をないがしろにして、「筑紫国の日向の小戸の阿波岐原高千穂の峰」と祝詞を替え、当時は権力で人を殺してでも天下を取る時代と成っていました。それにより弘法大師は生命の大切さを求道心され悟られました。伊勢生成の神を表に出す事が出来ない時代でした。そこで、生命を誕生させる為に欠くべからざる絶対なる五神力氣、日輪太陽の神力氣、

宇宙産迂迦の神力氣　　丹生丹生魂遺伝子の神力氣、　　月曆の神力氣、

生産土之地球の神力氣の五神を祀り、中心に大日如来を以つて、本堂を宇宙産曼荼羅で現されたのでございます。現在日輪太陽を中心としています。他の四体の佛さまの意味がわからなく、現在は人間・お釈迦さまなどの名前を付けて祀られています。弘法大師は、その後、神力氣により生命と誕生した植物の元生産親・動物の元生産親・人間の元生産親の三大太元帥明王を、

「太元法」を以つて、真言密教の教えとされ遺されました。又、金剛界曼荼羅

(おしべ・おす・男と胎蔵界曼荼羅(めしべ・めす・女)に現され、伊勢生成の神(総ての生氣物を生み生かし、育み育てる神力氣)を今日まで遺され、伝えられているので御座居ます。

普門院

「円空上人は、大宇宙産の大御意志「天地大父母」に認められ、弘法大師と真名井御前を七百九十七年目にして、一つの身体の中に共に生まれ変わりを許されたお方」と、加古藤市は夢の中で、過去世の人の霊と出会い、驚きの旅を続けました。その物語を出版するに当たり、真言密教の大僧侶、空海の生まれ変わりが沙門・円空であると認めて戴くのは高野山随一の座主に許可を戴きたいと、平成五年のある日尋ねたのが、普門院の住職・真言座主の近藤本昇さまのお寺で御座いました。近藤本昇さまは加古藤市の夢の話をお聞き、大変感動をされ、初対面にもかかわらず「わたしが佛さまにおしかりを受けますから・・・」と言われて客殿に泊めていただき、お許しを戴いた証として、平成元年三月二十一日発行、「新版・諸尊表白集本・末」を、私にくださいました。

夢現物語「円空の生い立ち」の出版は、「天皇家の口が利けなくされている事がどれほど苦しいか、皇后の口を封じ知らせる」と平成五年十月二十日、

皇后美智子妃殿下の誕生日に、合名会社 大衆書房から初版発行、発売する日を御啓示されました。(此の誕生日に美智子妃殿下は突然お言葉を失われました。)

普門院は、弘法大師空海の師であり、一番弟子とられた沙門・権蔵大徳が大日如来を御本尊さまにお祀りされたお寺です。

普門院略縁起

普門の大日如来を本尊とするが故に普門院と称す。弘法大師空海の剃髪沙戒の沙門・権蔵大徳が弟子空海の高野山開創をよるこびこの山に一寺を建立したのが当院のはじめである。南部の学匠として高名であった師を偲ぶ大師御自筆の行状讃文をもった写実的肖像画(国宝)を伝える。庭園は枯滝の石組等小堀遠州侯の作と伝えられ当山随一の名勝である。